

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園

1-1. 教育方針

○ゆとりのある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張っってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは、充実した設備と、情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にした教育を目指しています。

1-2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1 教員一人一人が自分自身を見つめ直し、学ぶことによって資質の向上や指導スキルを高めていく。
 - ①定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
 - ②外部からの新しい情報等を積極的に取り込み、自ら研修に励む。
 - ③年度末に自己評価をおこなう。
- 2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み
 - ①園児の健康観察及び予防に努める
 - ②園全体における感染症対策の徹底
- 3 地域の子育て支援拠点の充実
 - ・おやこ教室のPRに努め、開催日程や内容を地域に発信する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1 ①定期的な会議	A	保育内容や園児・保護者対応など毎日話し合い、職員間の連携を深め共通理解ができるように取り組んだ。
②自己研修	A	研修に行って学んだ事を発表し、職員間で共有することにより、日々の保育で活かすことができるよう努めた。
2 ①園児の健康観察	A	毎日の検温や登園時の検温表提出で、日々の健康観察を実施。うがい、手洗いの徹底をしたことで、感染予防の習慣が身に付き、コロナ以外の感染症にかかる園児が少なかった。
②感染症対策	A	職員、保護者のマスク着用。 (※園児のマスクは、少しずつ緩和していった) 園の入口、職員室、靴箱前、1階・2階トイレ、保育室等に消毒液の設置。 トイレに消毒液をふくませた足ふきマットを設置。 降園後、遊具・玩具・机・イスの消毒。 清掃の方による階段の手すり、扉等の随時消毒。 うがい・手洗いの推進。
③安全対策	A	避難訓練は、毎月行った。 常駐の警備員設置。 職員は、緊急一斉メールの方法を周知。 総合遊具の安全点検を年に一回行った。 砂場の消毒を月2回行う。 食物アレルギーの園児への対応。
3 地域の子育て支援の充実	B	未入園児対象の親子教室は、0～2歳コース（月1回） 2～3歳コース（月2～3回）行った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検、自己評価で自己を振り返ることが出来た。 コロナ禍3年目に入り、行事や保育の見直しを行い、参加者を段階的に増やしていくことができた。 保育計画・活動内容を見直し、バランスの良い充実した保育カリキュラムを考える。 運動会は、大阪芸術大学の体育館で行なったが様々な意見を取り入れ改善させる。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全上の意識向上	緊急時における対処法を、職員間で共通理解を深めていく。 園全体の環境整備を確認し、安全における意識を高めていく。
園行事等の精選	コロナ禍により規制されていたことが、緩和されるようになってきたので、今後に向けて行事を見直し改善していきたい。
園のPR	ホームページの写真掲載、情報公開。 天王寺区の情報博覧会で幼稚園の情報公開。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 運動会・音楽会は人数制限もなく、他の学年も観ることができ、子どもたちが伸び伸びしている姿が見られて良かった。
- 大阪芸術大学の体育館での運動会は、距離があるので辿り着くまでの道中が気になった。
- 子どもたちが楽しんでいる姿を見たいので、行事（縁日ごっこ・おもちゃつきなど）に親が参加したい。
- 年少児がマスク生活をしている姿が可哀想に感じたこともあったが、先生方が、子どもたちが少しでも園生活が楽しめるよう、色々と工夫して考えてくださっていたことに感謝している。
- 異文化をもっと知るために、歌やクッキングなどでアプローチするなど、広い視野を持って課題を持つとより良いと思う
- 園で習ったことを家でも伝えてくれるので、学びにおいて大切な経験だと感じている。
- 園全体をオープンにしてくださっているので、園の様子が分かりやすく安心して子どもを預けることが出来ている。

7. 公開保育について

実施日時	令和4年12月6日（火） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園
保育者	あやめ2組担当教諭
テーマ	野菜カードゲームを通して様々な野菜について興味を持ち、友達とルールのあるゲーム遊びを楽しむ
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 准教授
参加者	大阪府小学校・幼稚園・保育園園長、主任、教諭、育友会会長
総評	担任の先生の雰囲気づくりにより、子どもたちが吸い込まれていくのが分かりました。子どもと先生との信頼関係ができていて、野菜の知識を知ること、子ども達が会話を楽しみ、伸び伸びと活動しているのがよく分かりました。先生の指示がなくても、自分たちで本物の野菜を見る、図鑑や絵本で調べるなど、自主的に行動する姿が見られました。自らやりたいという意欲は言われてできるものではなく、興味があるからこそ出来ます。先生の遊び心満載の保育だったと思います。